



2021年春闘 コロナ禍でも前進を!

謹賀新年



新年おめでとうございます
委員長の千々岩です。
昨年(2020年)は「新型コロナウイルス感染症」と「令和二年七月豪雨」が発生し、大きな衝撃と被害を負った一年となりました。新型コロナウイルス感染症では一月頃から感染者が徐々に増え始め、四月七日から五月六日まで政府から緊急事態宣言が出されるなど日本中が大変厳しい生活を強いられました。その後の第三波と言われる十一月以降は感染拡大が続き、十二月二日〜一月十二日までのG.O. TOキャンペーンを中止す

る施策が取られ政府の対応の遅さを露呈された格好となりました。また七月に災害をもたらした令和二年七月豪雨は熊本県を中心に起きた大災害で、球磨川水系は13カ所が氾濫、JR九州では肥薩線・久大本線を中心とし、その他の線区を含めると17線区730カ所の被害が発生し会社の収益を押し下げる形となりました。
今年三月のダイヤ改正においては、新型コロナウイルス感染症の影響での列車の減便や新幹線・特急列車の臨時便化、最終便の繰り上げや筑肥線での6両ワンマン運転、そして、昨年十二月二日から香椎線・香椎駅〜西戸崎駅間で自動運転実証試験、駅無人・委託化の拡大をはじめ、ありとあらゆる会社施策に対して特段の注視をしなければなりません。

昨年(2020年)の期末手当は第二四半期決算で赤字となり、リーマンショック時の2.43ヶ月を大きく下回り1.2ヶ月とJR各社最低、過去最低の手当となり、組合としては反省する取り組みとなりました。今春闘に向けては、期末手当の結果を糧に春闘や夏

季手当に反映させる取り組みが必要と考えます。また、私達の喫緊の課題である組織強化・拡大について運動を強化してきましたが、九州では拡大が出来ていません。労働運動の基本である「理論と実践」を念頭に全組合員で取り組みましょう。最後に、今年の干支は午年であり、午年の意味は、日々の成長や努力が実り、結果となって頑張った成果が表れる年だそうです。国労九州本部として、午年は実りの年。今までの努力を開花させる。」を合言葉に組織拡大運動に先頭にたって取り組んでいく決意であります。

今年(2021年)は、組合員・家族のみならず、ご健康とご多幸がありますようにご祈念申し上げます。

がん治療を幅広く
まとめて保障するがん保険

NEW!
アフラックの
生きるためのがん保険
ALL-in

No.1

アベニール株式会社

西日本青年部からの報告

12月9日の組織対策会議に、西日本本部から4名の青年が参加してくれました。貨物職場での4名の拡大を基に報告を受けましたが、その中には、日貨労の役員もいたそうです。「国労は嫌いだったが日貨労が何もしないので国労加入を決意した」とのこと。「拡大対象者に上がってない人が加入してくれている。自分たちで壁を作るのではなく、誰でも拡大は可能であると信じて運動を強化している」と力強い報告でした。頑張りましょう!